

平成29年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立北糀谷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

・ICTを効果的に活用したり、課題について話し合いをするなどの学習を工夫することで、児童の学習に対する関心・意欲が高まり、基礎・基本を確実に身に付けさせることができた。

・短時間で楽しく作文を書く活動を取り入れることで、書くことが苦手な児童が減ってきた。

・タブレットを使い、話している様子を客観的にとらえる学習を続けることにより、より良い話し方ができる児童が増えてきた。

(2) 課題

・学年によって、書く能力、読む能力、言語事項に課題があるので、学年の実態に応じた指導を工夫することで課題を解決していく必要がある。

・言語事項の中でも、主語述語、連体修飾語、連用修飾語、指示語の理解については、繰り返し学習が必要である。年間を通して指導していく必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	平成29年度結果	平成28年度結果	平成27年度結果
第4学年	達成率±0		
第5学年	達成率+6.6	達成率±0（第4学年時）	
第6学年	達成率-8.3	達成率+11.8（第5学年時）	±0（第4学年時）

(2) 分析（観点別）

① 中学年

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語
国語に対する関心・意欲・態度は、目標値を若干下回っている。 ICT機器を効果的に使いながら、児童の関心・意欲を高める授業をしていく必要がある。	目標値を若干上回っている。 話し合いの放送を聞いた上で、内容に合う解答を自分の言葉で書き入れることに課題がある。	目標値を下回っている。 指定された長さで書いたり、2段落構成で書いたりすることに課題がある。	目標値を若干下回っている。 特に、説明的文章の要点に注意して読み取ること に課題がある。	目標値を若干上回っている。 基本的な漢字の読み書きについては、目標値より高いが、国語辞典の使い方について課題がある。

② 高学年

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語
国語に対する関心・意欲・態度は、目標値を大きく上回っている。 ICT機器を効果的に活用したり、伝え合いを重視したりして、児童の関心・意欲を高める授業をしている成果が表れている。	目標値を上回っている 学年と若干下回っている 学年がある。 自分の立場や意図をはつきりさせながら、計画的に話し合うことに課題がある。	目標値を大きく上回っている。日常的に書くことを取り入れている成果が表れている。	目標値を上回っている 学年と若干下回っている 学年がある。 文章の内容を的確に押さえながら読み取ること に課題がある。	目標値を大きく上回っている学年と若干上回っている学年がある。 漢字の読み書きや連体修飾語、連用修飾語、指示語の理解について課題がある。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語
<p>読み聞かせの時間を充実させ、読書意欲を喚起する。</p> <p>感想を述べたり、紹介文を書いたりして、互いに本に親しむようにする。</p> <p>日常の出来事について書く習慣を付ける。</p>	<p>相手を見て話を聞くことや順序よく話すことを指導する。</p> <p>事柄の順序を考えながら、聞いたり話したりできるようにする。</p> <p>話し方・聞き方の定型を指導し、それに慣れるようにする。</p>	<p>身近な事柄を簡単に説明する文章を書かせることで、抵抗感なく書くことを習慣にする。</p> <p>簡単な文章構成メモを作り、読み手を意識して順序よく文章が書けるようにする。</p>	<p>時間的な順序を考えながら場面の様子を想像して場面に合った読み方ができるようにする。</p> <p>内容を質問しながら理解を深めていく。</p> <p>本に親しみ、自分で楽しむだけでなく、友達に紹介する学習も取り入れる。</p>	<p>新出漢字は、音訓両方の読み、それを使った言葉や短文作りの学習をすることで文章の中で正しく使えるようにする。</p> <p>漢字学習は恒常的な反復練習をする。</p> <p><u>主語述語についての理解を深めるように日常的に指導していく。</u></p>

(2) 中学年

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語
<p>朝読書や読書の時間を有効に使う。「おすめの本」の紹介、子ども同士の読み聞かせ等を行い、本に親しむ機会を多くする。書きたいことを整理しながら順序よく書く機会を設け、書くことに対する関心を高める。</p> <p>ICTを効果的に活用したり、課題について話し合いをするなどの学習を工夫して関心・意欲を高めていく。</p>	<p>大事なことを落とさずに話すことができるように、メモを書き、推敲してから話すようにする。</p> <p>適切な言葉で話すように指導をする。自分の考えと比べながら、大事なことをメモしながら聞く習慣を身に付けさせる。</p>	<p>書く相手や目的を明確にしながら、段落相互の関係を意識して書くように指導する。</p> <p>間違いを正したり、より良い表現に書き直したりするなどの推敲を児童自身でできるように指導する。</p> <p>作文が苦手な児童を減らすように、短時間で楽しく書く活動を取り入れる。</p>	<p>物語では、繰り返し音読に取り組み、登場人物の気持ちや場面ごとの様子を正しく読み取ることができるようになる。</p> <p>説明文の読解では、段落相互の関係をとらえさせ、「事実」と「意見」に分けて読むことを指導する。</p>	<p>漢字の読み書きの定着を図る。</p> <p>国語辞典、漢字辞典の使い方を確実に身に付けさせ、いつでも調べられるような環境をつくる。</p> <p>地名や人名などがローマ字で読み書きできるように指導する。</p>

(3) 高学年

関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語
<p>朝読書の時間を継続するとともに、図書室を積極的に活用させることを通して読書の楽しさを感じるようにする。</p> <p>新聞の記事などを題材に朝のスピーチを有効的に活用して、「話す・聞く」学習に関心を高めるように努める。</p> <p><u>ICTを効果的に活用したり、課題について話し合いをしたりするなどの学習を工夫して関心・意欲を高めていく。</u></p>	<p>スピーチの内容を自分の言葉でまとめたり、簡単にメモしたりする活動を日常的に行う。</p> <p>相手の意見の大事なことはメモを取りながら聞くことを習慣化させる。</p> <p>ディベートなどの討論では、スピーチメモによる効果的な話の組み立てを考えさせる。</p> <p>タブレットを使い、自分が話している様子を客観的にとらえさせ、より良い話し方ができるように工夫する。</p>	<p>書くためのスキルを計画的に指導する。文章の構成・記述の仕方を重視し、自分の考えを明確に書くようにする。</p> <p>言語事項との関連を図りながら、自分で推敲したものをさらに相互に推敲させ、助言し合うことによって自分の表現の参考にするよう指導する。</p> <p>作文が苦手な児童を減らすために、短時間で楽しく書く活動を取り入れる。</p>	<p>物語をはじめとするいろいろな種類の本を目的に応じて読むように指導する。</p> <p>登場人物の心情を表す言葉にサイドラインを引かせたりノートに書かせたりすることで読み深めるようにさせる。</p> <p>キーワードを意識させながら要約する学習を取り入れていく。</p>	<p>漢字の読み書きは反復練習を継続する。熟語などは意味を考えながら覚えさせ、学習した漢字を日常的に活用するように指導する。</p> <p>語句の役割や主述関係・修飾被修飾関係などは場面を適切にとらえて繰り返し指導する。</p> <p><u>連体修飾語、連用修飾語、指示語について、今後も指導を強化していく必要がある。</u></p>